

CVC講習会を行いました

Central Venus Catheter、CVCの留置は日常的に行う医療手技の中でも致死的な合併症を起こすことがある、と考えられています。エコーガイドや、細径の穿刺針使用などが普及しても重篤な合併症は起こりえます。（医局に啓発用関連図書があります。）特に経験の少ない研修医にとっては、上達したい手技かつ危険な手技の第一番、ではないでしょうか。

当院では経験の浅い医師は座学とシミュレーションの講義を受けて、実地見学を3回受けてからでないと留置手技を行うことが出来ません。毎年4月にCVC委員会主催の講習会が開かれますが、本年は麻酔科の大川先生が主導で行われました。

マネキンを用いたシムトレーニングですが、エコーガイドの利点、欠点などを学びつつ安全な穿刺、留置手技の基本を学びました。

太さ2cmの血管ですから、きちんと行えば確実な穿刺は難しくありません。でも、注意すべき点をおろそかにすれば合併症を来たしかねません。

皆さん、うまい人の技術をよく観察して、自分のものにしてくださいね。最後に大川先生、ありがとうございました。

